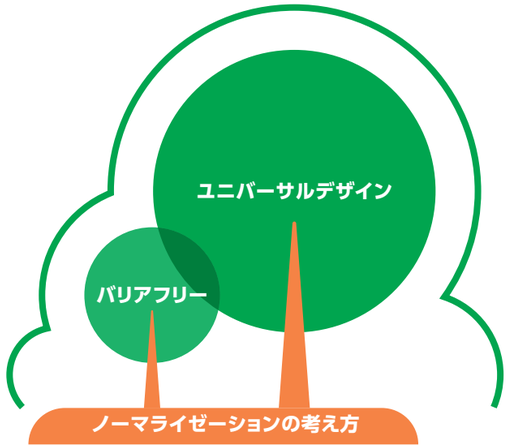
1　ユニバーサルデザインのまちづくりの背景と目的など

（本編 p.6-p.11）

ユニバーサルデザインが求められる背景

- 大田区ではこれまで、ノーマライゼーションの理念の下、障がい者や高齢者にとっても利用しやすいまちづくりを進めてきましたが、そのほとんどが「バリアフリー」の考え方によるものでした。
- バリアフリーは、障がい者や高齢者等「特定の人」に対する「特別な対策」ですが、これまでの取り組みを見たときに必ずしも十分とはいえない点があります。特に、あらかじめバリア（障壁）を作らないという取り組みや、ハード面の整備だけではなく、ソフト面での対策が十分ではないといった問題があります。
- このような状況から、真のノーマライゼーション社会の実現のためには、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、広い視野でまちづくりをとらえ、ユニバーサルデザインの考え方によりできるだけ多くの人のニーズに応えていくことの必要性が高まってきました。
- そこで、ユニバーサルデザインに関し、大田区がめざす将来のまちの姿やまちづくりの考え方をまとめた「大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針」（以下、「本基本方針」という。）を策定し、区民、事業者等と大田区が協働して、様々な取り組みを総合的かつ計画的に推進していきます。



みなさんはこんなことを考えています。

区民意識調査結果、区民検討会、ワーキンググループ検討会より

ご高齢の方
- 歩道上の段差があるところに気がつきにくく移動するのに危険。
- 地域の中でユニバーサルデザインについて学ぶ機会、教える機会が少ない。

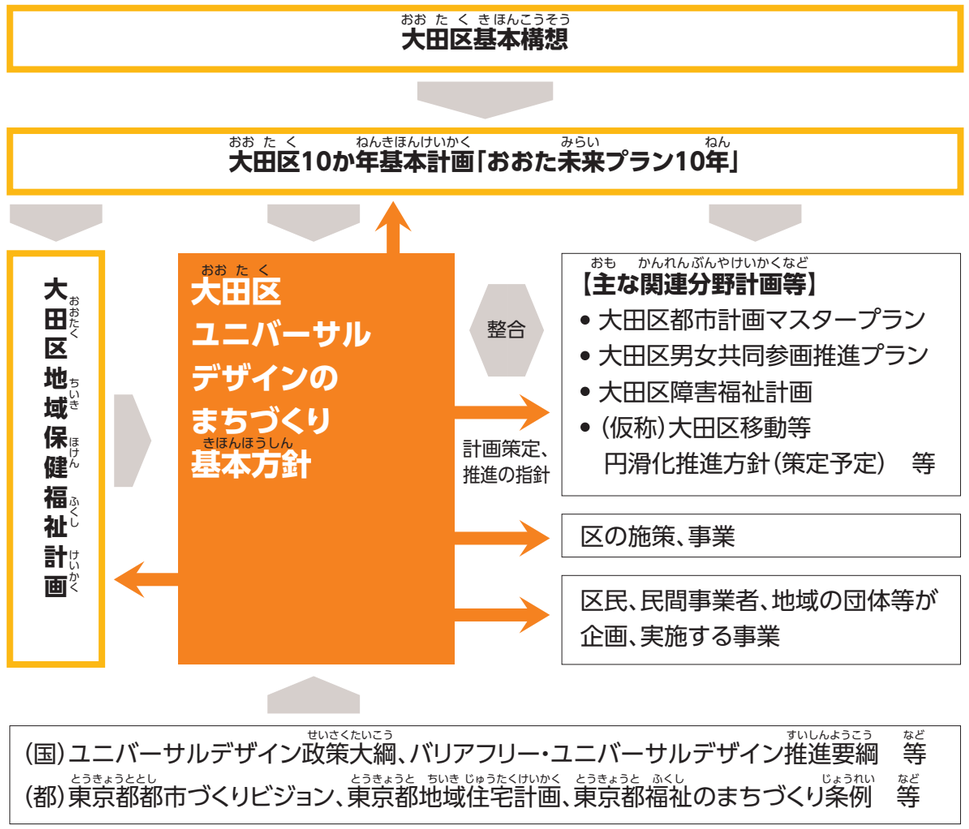
外国の方
- 外国人にも理解できるマップや案内がほしい。
- 窓口では英語等にも対応してほしい。

障がいのある方
- 電車の遅延情報等を伝える方法が複数あるとよい。
- ハードの充実ばかり図るだけでなく、それを補うのがコミュニケーションの充実である。

子育て中の方
- ベビーベッドが汚れている等、トイレの管理が行き届いていない。
- 出産直後、始めての子育てで不安なので、地域で子育てできるとよい。

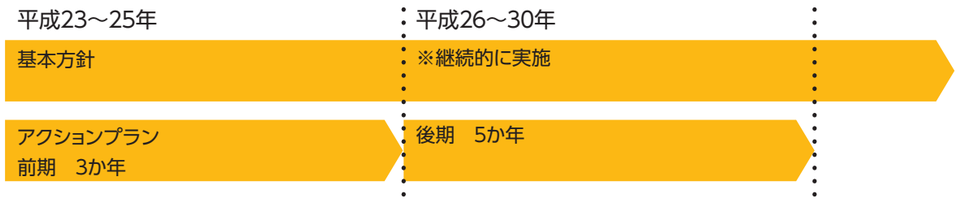
本基本方針の位置づけ

- 本基本方針は、ユニバーサルデザインによるまちづくりを推進するため、区の計画や事業等の基本的な考え方や方向性を示す指針となるものです。また、区民、事業者、地域の団体等と区がユニバーサルデザインのまちづくりに協働して取り組むための指針としても位置づけます。



計画の期間

本基本方針の計画期間は次のとおりとします。



ユニバーサルデザインの定義

- ユニバーサルデザインとは、ここでは「あらかじめ障がいの有無、年齢、性別、国籍等に関わらず、多様な人々が利用しやすいように考えて、都市や生活環境をデザインすること」をいいます。

2　ユニバーサルデザインのまちづくりの基本的方向

（本編 p.22-p.25）

ユニバーサルデザインを推進するためのキーワード

大田区では、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためのキーワードとして、「やさしさ」「やくそく」「まち・くらし」「しくみ」を掲げ、これらを基本にして、まちづくりに取り組んでいきます。

ユニバーサルデザインのまちづくりの進め方

区で進めるユニバーサルデザインのまちづくりのプロセスを、「やさしさ」「やくそく」「まち・くらし」「しくみ」の関係から、まちづくりを推進する時間の流れの中で見ていきます。

■ ユニバーサルデザインを推進するためのキーワード

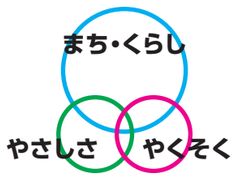
やさしさ
- 声をかけ合う
- 気づき
- 思いやり
- 理解し合う　等

まち・くらし
- 安全で安心な生活
- 人が優先
- 維持・管理
- 多様な移動手段
- わかりやすい、移動しやすい　等

やくそく
- ルールを守る
- まちにある「もの」の意味や使い方を理解すること
- マナー、モラル　等

しくみ
- 参加・参画する
- 評価する
- 継続する　等

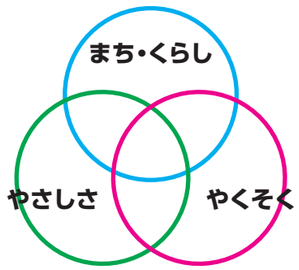
現状



学習や体験を重ねる　行動に移す

現状では、ユニバーサルデザインの考えが浸透しておらず、人々が「やさしさ」を持ち、「やくそく」を理解してもその広がりは限定的です。「まち」や「くらし」の中でも、まちを利用することへの理解が不十分な状況です。このため、個々が学習を重ね行動に移すことが必要です。

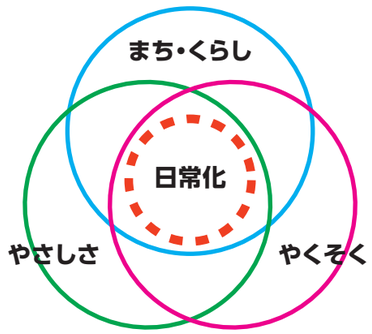
導入当初



気づきや声かけが当たり前になる

導入当初は、ユニバーサルデザインの考え方が広がり始め、それに沿って人々が行動することができるようになった時期です。「やさしさ」が広がり、「まち」や「くらし」のなかでは、道路や施設が使いやすく整備され始めます。「やくそく」がしっかりと認識され、行動に移せるようになります。

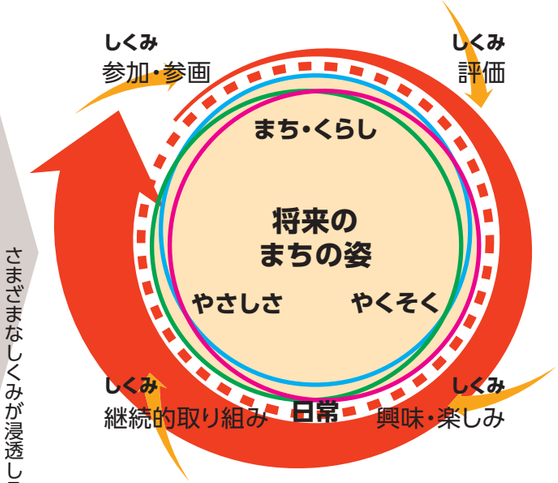
日常化



さまざまなしくみが浸透しユニバーサルデザインのまちに近づく

「やさしさ」「やくそく」「まち・くらし」それぞれが広がりながら重なり合うことで、ユニバーサルデザインの考え方が浸透し、ユニバーサルデザインのまちが日常化していきます。このように、ユニバーサルデザインのまちが、誰にとっても当たり前になります。

大田区が取り組むユニバーサルデザインのサイクル



将来のまちは、「やさしさ」と「やくそく」が「まち・くらし」と重なり合って、一体になり実現します。この状況の継続は、誰もが楽しんでまちづくりに取り組むことにより可能となります。また、「しくみ」が整備され、改善の取り組みが円滑に行われるようになります。

3　ユニバーサルデザインのまちづくりの姿と考え方

（本編 p.26-p.29）

将来のまちの姿

区がめざす「将来のまちの姿」を、
以下のような言葉で表しました。

やさしさが広がり、
だれもが安心して
快適にすごせるまち
おおた

　これは、区民一人ひとりが「やさしさ」を持ち、「やくそく」をしっかり理解し、まち全体にもやさしい気持ちを広げていくことを示しています。
　そうした「やさしさ」の広がりが、徐々に「まち・くらし」を変え、誰もが安心して快適にすごせるまちをつくり出していきます。
　さらにこの将来のまちの姿を日常化するために、まちに関わるすべての人が、「やさしさ」「やくそく」を原動力とした協働の「しくみ」を確立し、まちづくりに取り組むことをめざします。

まちづくりの考え方

「将来のまちの姿」の実現に向け、
次の三つのまちづくりの考え方を定めました。

1　やさしさ・やくそく

互いの違いに気づき
思いやりの心を育む場や機会をつくります

1-1　ふれあいでわかり合える区民の交流促進
1-2　楽しく学べるユニバーサルデザインの教育推進
1-3　区民・事業者・地域の団体等・区が協働で取り組む普及・啓発
1-4　情報の発信・提供

2　まち・くらし

だれもが安心して簡単に
移動・利用できる快適なまちをつくります

2-1　安全で楽しいみち・場所づくり
2-2　ユニバーサルデザインの公共的施設づくり
2-3　円滑に移動できる施設・設備としくみづくり
2-4　自転車と歩行者が共存するまちづくり
2-5　楽しい商店街・魅力ある買い物空間づくり
2-6　まちなかをわかりやすくする案内・サインの充実

3　しくみ

みんなの声を活かし継続的に
まちを見守り育てるしくみをつくります

3-1　地域力を活かしたユニバーサルデザイン推進体制づくり
3-2　区民参加による地域力を活かす組織づくり
3-3　行政サービスのユニバーサルデザイン

アクションプラン

まちづくりの考え方に基づいて、課題を解決し、まちづくりを
具体的に推進していくためのアクションプランを定めました。
このアクションプランを実践していくことで、課題の解決に取り組んでいきます。

やさしさ・やくそく

互いの違いに気づき思いやりの心を育む場や機会をつくります

ユニバーサルデザインのまちづくりは、区民一人ひとりが、互いの違いや個性等に気づき、理解し合うことから始まります。そこから、互いを思いやる気持ちが育まれ、一人ひとりの行動へとつながっていきます。これらが一体となって推進されるよう、学ぶ機会や互いを知るための区民交流、わかりやすい情報伝達等多様な面から、参加・参画の場や機会を整えていくことをめざします。

アクションプラン 1-1｜ふれあいでわかり合える区民の交流促進

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

困っている人がいた時、
気軽に声をかけあう雰囲気がある

各団体、機関が連携して
地域を見守るしかけがある

誰もが人の立場になって、
考えることができる
思いやりをもっている

ユニバーサルデザインのセミナーが
ひんぱんに開催されている

アクションプラン 1-2｜楽しく学べるユニバーサルデザインの教育推進

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

学校や生涯学習等で、
ユニバーサルデザインを
継続的に学ぶ機会がある

誰もが高齢者や障がい者、
外国人等のことを知ろうと
する気持ちを持っている

小中学校での擬似体験を
通じ、高齢者や障がい者の
気持ちがわかる

地域や仲間同士で、
ユニバーサルデザインの
ことを話し合っている

アクションプラン 1-3｜区民・事業者・地域の団体等・区が協働で取り組む普及・啓発

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

まちづくりに参加する機会が多く、
互いに学習してユニバーサルデザインの
意識を高めている

地域や職場で
ユニバーサルデザインに
ついて知る機会がある

ユニバーサルデザインに
ついて、区民からアイデアを
募っている

アクションプラン 1-4｜情報の発信・提供

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

高齢者・障がい者や外国人にも
わかりやすいサインになっている

広報誌やリーフレット、ホームページ等が、
ユニバーサルデザインに沿って作成されている

3-2 まちづくりの考え方 2

(本編 p.44-p.57)

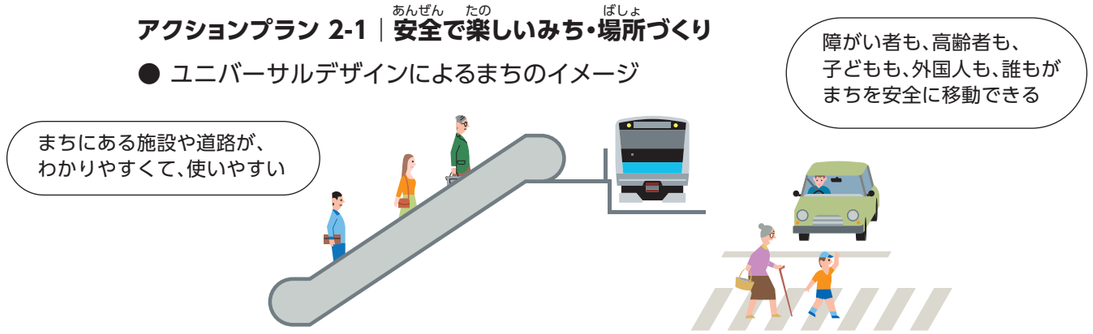
まち・くらし

だれもが安心して簡単に移動・利用できる快適なまちをつくります

誰もができるだけハードルを感じることなく、安心して簡単・安全にまちを移動・利用できる環境を整えます。公共的施設や、移動経路、屋外・屋内環境、案内がわかりやすい看板・サイン等のハード面の整備からユニバーサルデザインのまちづくりを進めていきます。

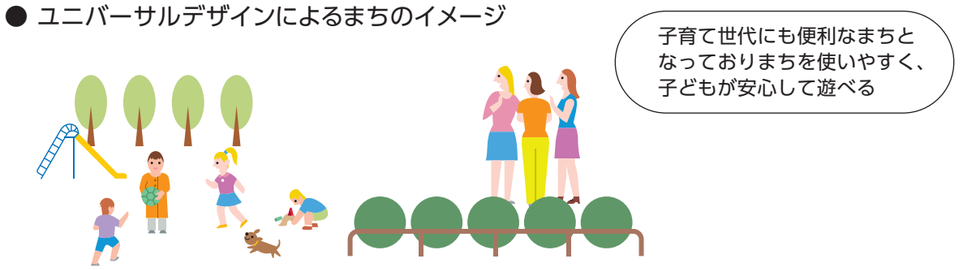
アクションプラン 2-1｜安全で楽しいみち・場所づくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ



アクションプラン 2-2｜ユニバーサルデザインの公共的施設づくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

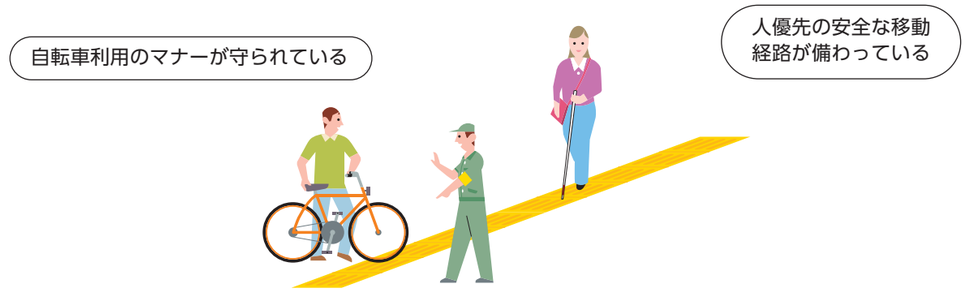


アクションプラン 2-3｜円滑に移動できる施設・設備としくみづくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

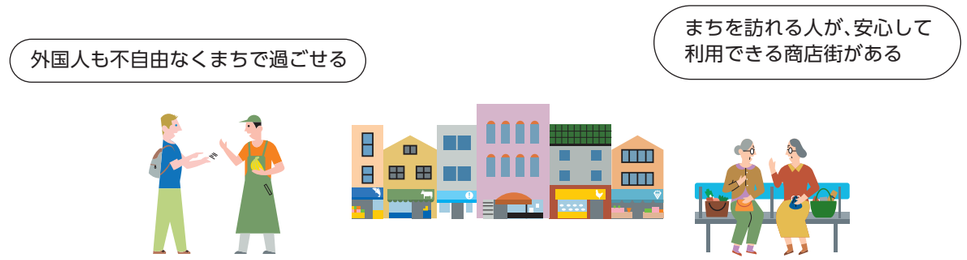
アクションプラン 2-4｜自転車と歩行者が共存するまちづくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ



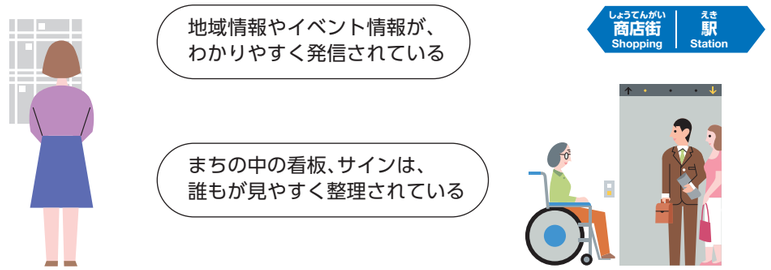
アクションプラン 2-5｜楽しい商店街・魅力ある買い物空間づくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ



アクションプラン 2-6｜まちなかをわかりやすくする案内・サインの充実

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ



3-3 まちづくりの考え方 3

(本編 p.58-p.67)

しくみ

みんなの声を活かし
継続的にまちを見守り育てるしくみをつくります

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するため、区民や事業者、地域の団体等様々な立場の人が気軽に参加し、みんなの意見が反映できるしくみやまちづくりの体制を整えていきます。みんながユニバーサルデザインの事業計画づくりやその実施・評価に参加する等、まちづくりに継続的に繰り返して取り組むことで、より豊かなユニバーサルデザインのまちに育っていくことをめざします。

アクションプラン 3−1｜地域力を活かしたユニバーサルデザイン推進体制づくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

アクションプラン 3-2｜区民参加による地域力を活かす組織づくり

● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

アクションプラン 3-3｜行政サービスのユニバーサルデザイン

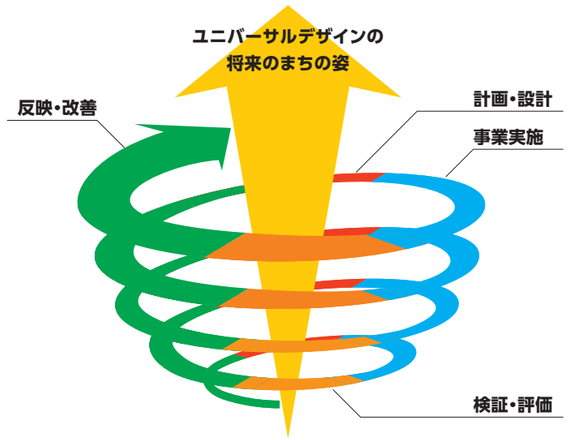
● ユニバーサルデザインによるまちのイメージ

4 ユニバーサルデザインの推進

(本編 p.70-p.79)

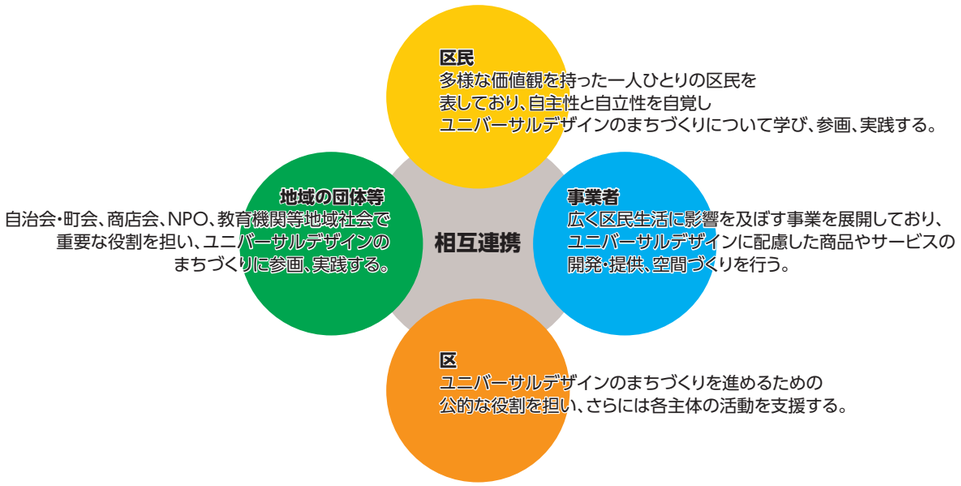
ユニバーサルデザインのまちづくりの取り組みの基本的考え方

- 「将来のまちの姿」の実現に向けて、区とともにまちづくりを担う主役である多様な区民の参加・参画によるユニバーサルデザインへの取り組みが重要です。
- 各主体がユニバーサルデザインのまちづくりに連携して取り組み、「将来のまちの姿」へとスパイラルアップしていくしくみを導入していきます。



各主体に期待される役割

- ユニバーサルデザインのまちづくり推進は、区民や事業者、地域の団体等、区等のすべての担い手が互いに連携しながら、一つひとつ着実に取り組んでいくことが必要です。
- こうしたことから、そのまちづくりの担い手として、次の各主体とその役割を想定しています。これらの相互連携により、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組みます。



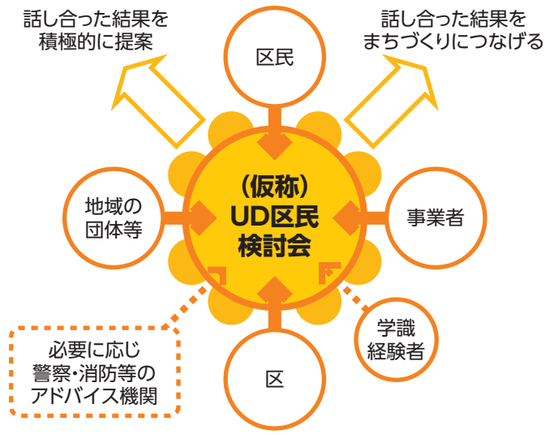
ユニバーサルデザインのまちづくり推進体制

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するにあたり、スパイラルアップのしくみ、各主体の役割も踏まえ、次の三つの方針を定めます。

● 取り組み方針 1

「区民」「事業者」「地域の団体等」「区」等、多様な主体の知恵を結集できる体制を構築します。

- 「区民」「事業者」「地域の団体等」「区」等が協働で知恵を出し合う「(仮称)UD区民検討会」を設置します。

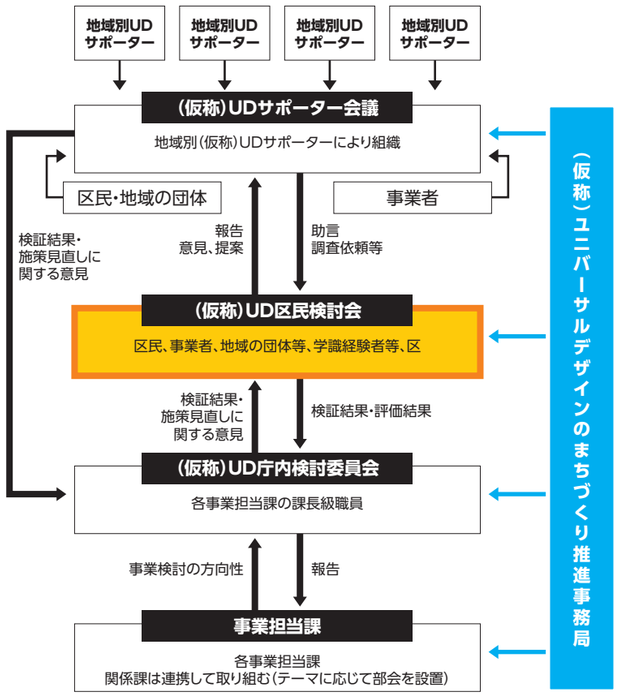


● 取り組み方針 2

地域の声を反映し、地域に密着したまちづくりを進めるため、地域力を活かした取り組みを行います。

- ユニバーサルデザインのまちづくりにおいて、地域から提案し、実践するため「(仮称)UDサポーター」を組織します。

● 取り組み方針 3

多様な分野の人たちの力を結集するため、横断的な体制や新たな制度を整えます。

- ユニバーサルデザインに関する条例や憲章、宣言等の制定も検討し、各主体が参加・参画できるしくみをつくります。